

## SDGsを楽しみながら学べる展示

### ハイムーン展

2022年からハイムーンこと高月紘先生の環境漫画にてSDGsを読み解く展示を「ことす館内」にて開催してきましたが、引き続き一部の展示を常設化するため、個人利用ができる部屋(サイレントルーム)に引っ越しました。環境問題についてイラスト形式でわかりやすく学べます!



ハイムーン展詳細



### アップサイクル作品展示 模様替え

ことすに集まった作品の数々をレイアウトを仕切り直し、2階のホール(リシンクホール)に移設しました。今後もアップサイクル事例の紹介として、ホールに展示する作品を募集していきます。

## ことすアップサイクルコレクション

#### 「アップサイクル」とは??

捨てるものや眠っているものに手を加え、デザインや使い方を工夫して、元より価値のある新しいものに生まれ変わらせること。持続可能な循環型社会の実現に向け、世界でも注目を集めています。



## 京北の大雪の中? 試行錯誤で、ピコ水力発電を設置



1月27~30日 ピコ水力発電をめぐる農場(京北下町)の農業用水路に設置しました。大雪が降る中の設置となりましたが、無事連続運転を行う事ができました。発電した電気を使いバッテリーシステムの連携、電波の弱い所へのWIFI中継点の連携、防犯カメラによる遠隔監視を実施しました。リアルタイムに、状況をことすや手元のPCにて確認できました。今回つららが邪魔をして止まるトラブルもありましたが、この経験を今後の改善に活かしていきたいと思えます。

### 活動予定

京北めぐる市  
毎月第4土曜日開催決定!  
4月22日、5月27日、6月24日、7月22日、  
8月26日、9月23日、10月28日、  
11月25日、12月23日



参加者・出店者・運営ボランティアスタッフを募集しています! 詳細はこちらから

### お問合せ

(一社)びっくりエコ研究所(梶谷・前田)  
電話: 075-748-1986(ことす)  
メール: mezase530@gmail.com



この印刷物は、自然エネルギー(バイオマス発電5.6kWh)を使用して印刷しました。

ことす 検索

## 京都市立京都京北小中学校4年生と ごみについて学習しました!

4年生23名とごみの授業は、35時間に及びました。「ごみてなんだろう」という授業から始まって、紙ごみ、生ごみ、プラごみ、飲料容器のごみ、スマホなどを含む家電ごみ、衣類のごみ、大型ごみなどいろんなごみを見てきました。途中、クイズあり、工作あり、映画あり、輪になっての話し合いあり、絵を見ての話し合いあり、教頭先生への提案あり、壁新聞作りありと、多様な学び方もしました。



この間にごみの知識がたくさんつきました。ごみに対するイメージも大きく変わったことと思います。ごみの問題は単純ではないため、多くのことを考え、話し合いました。よく聞く3Rは、リデュース(ごみにならないよう、そもそもごみになるものを減らす)、リユース(同じものを何度も使う)、リサイクル(再度資源として使う)の3つのRの頭文字をとったものですが、この順序で順番が大切であること。ごみのことを学んでいるつもりが、いつの間にか、そのモノがどこからきているのか、何でできているのか、どんな風にできているのか、そもそも多すぎるのではないかなどということを考えるようになったこと。



また、話し合いの中で何度も、京北のことを大事に思う児童たちの姿が見られました。そして、他の国の人のこと、未来のこと、昔の人のことも同じように大切に考えていて、想像力、共感力の高さにも驚かされる場面がありました。この力は、環境問題を考える上で、とても大切です。

環境問題解決のためには、「もったいないな」という気持ちと「こうしてみたらどうかな?」というアイデアの両方が必要だということも伝えてきました。児童のみなさんの発想はいつも豊かで柔軟で、アツとおどろくアイデアも飛び出してきました。京北の未来を考える時には、是非子どもたちにも意見を聞いていただきたいと思えます。素晴らしい発想が解決策につながったり、小さな助言が明るい未来を創ることになると感じています。

最後に、11月から4ヶ月間、毎週のように京北に通い、景色の美しさと、子どもたちの互いを気に掛け合う関係を見ていて、私の心はいつも温かかったです。こんなに長い時間をこのクラスの皆さんと共に学べて、とても幸運に思います。ご家庭や地域でのご理解をいただき、本当にありがとうございました。

担当: ひのでやエコライフ研究所 大関はるか

ことす  
めぐる  
レター  
|  
KOTOS  
Meguru  
News Letter

Vol.7  
2023年3月  
発行  
(一社)びっくりエコ研究所

## 京北めぐる プロジェクト について

正式な事業名称:  
環境省令和4年度脱炭素化・先導的廃棄物処理システム実証事業(多様な地域資源の有効活用)に資する技術実証事業  
「生ごみバイオガス化施設のオンサイト利用による脱炭素型農業を核とした里山・都市循環」

実施主体:  
(一社)びっくりエコ研究所

協力・連携:  
京都超SDGsコンソーシアム、京都里山SDGsラボ運営協議会等

期間:  
2021年11月~

# 生ごみバイオガス化施設を利用し、脱炭素型農業を核とした里山(京北)・都市の循環を目指して

## 京北地域の視察を開催

2023年2月6日に京都市内の百貨店やホテル、飲食店などを対象に呼びかけ、貸切バスで京北地域をまわるツアーを開催し、18名にご参加頂きました。

訪問先	ツアー内容
京北銘木生産協同組合	北山杉などの銘木の生産現場の視察
村山木工	立体組子などの作品の製作現場の視察
京北運動公園裏	建設中の生ごみバイオガス化施設の視察
京都里山SDGsラボ (ことす)	テレワークやアップサイクルギャラリーなどの施設内の視察 京北のグルメを試食 プロジェクトの紹介

### 試食タイム

液肥で育てたお米の炊きたてごはんや山国納豆、おからで育てた平飼卵、鹿肉ジビエカレー、猪肉入りの粕汁、京北野菜の味噌漬け、くろもじ茶などを召し上がっていただきました。

### プロジェクトの紹介(仮称「京北食めぐるプロジェクト」)

京北地域で生ごみバイオガス化施設を導入し、分別した生ごみを液肥にリサイクルし、液肥を使って生産された農産物を利用するという、都市と里山をつなぐ食品リサイクルループの構想について紹介し、各社に参加を呼びかけました。

### 参加者の声

参加者にはアンケートにご協力頂き、「社に持ち帰り検討する」「大変共感しております」「同じ志を持っている人たちと出会えて感激」「大企業ゆえのハードルがあるが、社内に取り組みの重要性を提案する」などの前向きなご意見も頂きました。



## 検討委員会を開催

環境省の委託事業を円滑に実施するための検討会を2023年1月17日と2月21日に開催しました。2022年度は自治振興会や、各自治会、農家、病院、福祉施設、行政、大学などから参加していただき、委託事業の計画や進捗を報告した後、各委員からご意見などをいただきました。

### 1月17日 いただいたご意見(抜粋)

・生ごみバイオガス化施設開設は京都市が全国に先駆けた取組で、シビアなご意見も出たが、京北地域みんなが夢を持てるような取組をしていただきたい。私ども自治会でも協力していきたい。

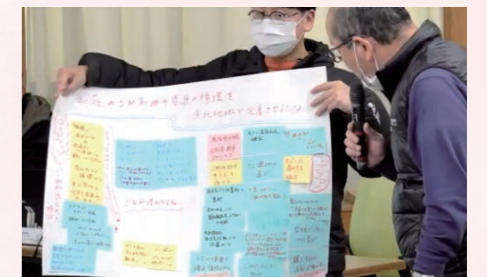
・事業者として協力はしたいが、回収方法や事業者の費用負担が一番ネックになる。そのあたりは具体的な話を聞かせていただいて、できるだけ協力できるようにしたい。

・液肥の実証結果はよい方向に出た。肥料がかなり高騰しており、経費の軽減になればよい。しかし、散布作業が追い付かないことが一番の問題だと思う。

### 2月21日 ワークショップのテーマ

各グループに分かれそれぞれの課題やアイデア出しのワークショップを行いました。

- A: 家庭ごみ削減や資源の循環をいかに普及させるか
- B: 事業者のごみ削減や資源の循環をいかに普及させるか
- C: 農家にとってよい循環を作るには



## 第4回京北SDGs農業研究会を開催

今春から稼働する予定の山国の生ごみバイオガス化施設では、1日最大2tの液肥が生産され、70.5m<sup>3</sup>の貯留タンクが敷地内に設置されます。水田で同時期に液肥を利用するには、いかに多く貯留するかが課題になります。また、液肥貯留量のピークを下げるために分散して貯留する必要も考えられます。そこで、第4回は「液肥利用の年間計画」をテーマに開催し、京都里山SDGsラボ(ことす)に6名の農家にご参加いただきました。

真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合の山口氏を講師に招き、お話を伺いました。岡山県真庭市の生ごみバイオガス化施設では1日1t前後の液肥が生産され、その半分は春の水田散布に使われるほか、40軒程度の各農家が自前のタンクに貯留したり、市民向けの配布ステーションからも週1~2回補充するペースで液肥が使われているそうです。参加した農家からは「固形分がフィルターで取り除ければ灌水チューブで野菜にも使って、液肥貯留のピークを下げられそうだ」など意見を頂きました。

京北SDGs農業研究会とは、京北地域において、持続可能な農業を通じた地域づくりを考え、輪を広げようと始めたもので、農業関係者を中心に、年に数回の勉強会や視察などを行っています。



## 山国に生ごみバイオガス化施設を建設

(公財)京都高度技術研究所(ASTEM)が環境省から受託した実証事業により、日量1tを処理できる生ごみバイオガス化施設を設置中です。京都市は4月から京北地域で生ごみの分別収集を開始します。生ごみの分別収集にご協力いただけるご家庭には、生分解性袋を使って回収拠点に出していただきます。回収拠点は京北地域の10か所程度を予定しており、週2回収集していきます。

